

シリーズ

秘蔵写真

# 今は昔の林業

第6回

中部森林管理局技術普及課

井上 日呂登

今は昔、山村に暮らす人々とその生業としての林業を当局秘蔵の写真とともにご紹介します。

## 「鋸での伐採」

斧と並んで重要な伐採の道具であったのが鋸です。木の伐採のためのものなので、大工さんが使うような両刃の鋸や製材用のものではなく、片刃で木の繊維を横に挽く形です。



大正時代末頃の伐採風景  
(現在の木曾森林管理署管内)

体力が必要な作業ですが、パワーというよりも技術(コツ)と持久力が要求されました。また、効率よく伐採作業を進めるためには日に何度も鋸刃にヤスリを掛けて「目立て」をすることが重要でした。



昭和25年頃の伐採風景  
(現在の東信森林管理署管内)

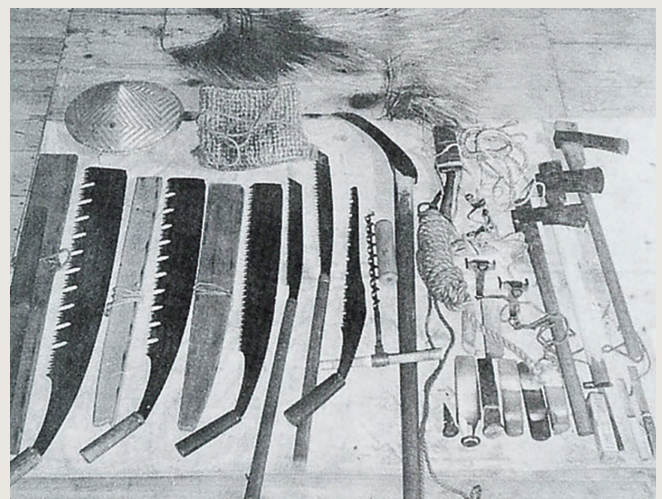


昭和30年代頃の伐採風景  
(旧名古屋営林局管内)

斧を使った伐採でも、最後に伐倒方向の反対側から「追い口」と呼ばれる切れ目を入

れる際には鋸を使うケースが多かったようです。

昭和三十年代に進んだチェーンソーの普及により、長らく伐採の現場で活躍し象徴的な道具であった斧や鋸に代わって、林業用機械の活躍が増えることとなります。



昭和30年代中頃まで使われた伐採道具  
(現在の南信森林管理署管内)

ここで紹介している写真は、当局サイト「モノクロ森林紀行」で紹介しております。

これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！むかしの写真を紹介するサイトです。

当サイトへは、QRコードを読み込んでください。

